



平成28年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年4月25日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社篠崎屋

コード番号 2926 URL <http://www.shinozakiva.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 樽見 茂

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理グループ長兼経営企画部長兼IR室長 (氏名) 矢立 実

TEL 048-970-4949

四半期報告書提出予定日 平成28年5月2日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年9月期第2四半期の業績(平成27年10月1日～平成28年3月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年9月期第2四半期	2,071	△10.5	9	△86.9	10	△86.1	△5	—
27年9月期第2四半期	2,314	△9.5	76	△48.5	75	△48.7	66	△47.7

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年9月期第2四半期	△0.36	—
27年9月期第2四半期	4.69	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年9月期第2四半期	1,741	1,265	72.7	89.40
27年9月期	1,693	1,312	77.5	92.30

(参考)自己資本 28年9月期第2四半期 1,265百万円 27年9月期 1,312百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年9月期	—	0.00	—	2.50	2.50
28年9月期	—	0.00	—	—	—
28年9月期(予想)	—	—	—	—	—

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成28年9月期の配当予想額につきましては、業績予想の開示を行っていないことから、現時点において未定とさせていただきます。配当につきましては業績予想の見通しを開示した際にお知らせいたします。

3. 平成28年9月期の業績予想(平成27年10月1日～平成28年9月30日)

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による影響の予測が困難なため現時点での予想の開示は行っておりません。なお、情報開示につきましては既存店等の情報を月次で開示するとともに、通期につきましては第4四半期中を目処に、分かり次第、速やかに適時開示をまいります。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年9月期2Q	14,436,600 株	27年9月期	14,436,600 株
28年9月期2Q	278,800 株	27年9月期	220,000 株
28年9月期2Q	14,200,601 株	27年9月期2Q	14,216,600 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績見通し等の前提となる仮定及び業績見通し等のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料3ページ、「(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」を参照してください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間の売上高は2,071,543千円(前年同四半期比10.5%減)、営業利益は9,985千円(前年同四半期比86.9%減)、経常利益は10,452千円(前年同四半期比86.1%減)、四半期純損失は5,175千円(前年同四半期は四半期純利益66,676千円)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(小売事業)

当事業年度の既存店につきましては、「より分かり易く、より買い易い」をテーマに取り組んでおります。

具体的には商品パッケージの統一化を進め、より分かり易くすることによる茂蔵ブランドの認知度向上と、商品価格が買い易い価格帯である100円商品のアイテム数を増やすため、量目等の見直しを進めました。結果、1店舗平均の顧客数は前年同四半期比96.3%、顧客単価は同97.4%となり、1店舗平均の売上高は同93.8%となりました。但し、1店舗平均売上高の前年同四半期比については、第1四半期会計期間の89.0%から第2四半期会計期間と同98.7%と回復傾向にあります。

これは、デザインの統一化の目処が2月でほぼ終了したことに加えて、既存商品の包材等の在庫調整により一時的に減少した商品アイテム数も新商品を積極的に発売した結果、3月には前年同月比126.1%のアイテム数となったことが要因であります。また、アイテム数を増やすことで買上点数は前年比105.9%、3月単月では111.2%となり、新デザイン・価格等による「より分かり易く、より買い易い」は着実に浸透し始めております。今後もアイテム数を増加していく予定であり、それに伴う売場の商品陳列の見直し等が課題となると考えております。

また、出店につきましては、3月に既存業態を1店舗出店しましたが、新業態につきましては既存店舗の売場見直しを優先するため当面は見送ることいたしました。一方、販売手法の多様化につきましては、デザイン統一によるブランドの分かり易さから催事依頼が増加し、商業施設等で実施することにより販売データの蓄積を行いました。

売上総利益率につきましては29.2%と前年同四半期比0.5ポイント程度低下しましたが、これは売上減少に伴い物流費率が0.6ポイント上昇したことが要因となりました。但し、第2四半期会計期間につきましては物流費率を考慮しても0.5ポイント低下しており、100円商品を増やすことによる売上総利益率の低下は今後の課題と考えております。

営業利益につきましては、売上高が減少したことにより固定費である売上高人件費率1.2ポイント増、同家賃比率0.5ポイント増が要因となり販管費率が2.1ポイント上昇し営業利益率は2.6ポイント低下しました。

以上の結果、小売事業の売上高は1,855,387千円(前年同四半期比11.2%減)、セグメント利益(営業利益)は67,747千円(前年同四半期比47.9%減)となりました。

(その他事業)

その他事業は、小売加盟店及び業務用得意先への卸売事業並びに通販事業であります。

その他事業の売上高は216,155千円(前年同四半期比4.2%減)、セグメント利益(営業利益)は19,682千円(前年同四半期比28.0%減)となりました。

なお、当第2四半期累計期間の出店状況は、次のとおりであります。

(単位：店)

		前事業年度末 店舗数	増加	減少	当第2四半期末 店舗数
小売事業	「三代目茂蔵」(直営店)	59	1	1	59
その他事業	「三代目茂蔵」(加盟店)	85	6	3	88
合計		144	7	4	147

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態

(資産)

当第2四半期会計期間末における資産の残高は、前事業年度末と比較して48,190千円増加し1,741,527千円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加26,897千円、売掛金の増加21,743千円及び商品の増加27,039千円等によるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末と比較して94,675千円増加し475,785千円となりました。主な要因は、買掛金の増加82,708千円及び未払金の増加10,399千円等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末と比較して46,484千円減少し1,265,742千円となりました。これは四半期純損失5,175千円の計上と配当金35,541千円の支払による利益剰余金の減少40,717千円及び自己株式の取得5,767千円によるものであります。

③ キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度と比較して26,897千円増加し497,680千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、67,941千円(前年同四半期は104,738千円の収入)となりました。これは主に、増加要因として減価償却費及びその他の償却費17,310千円、仕入債務の増加額82,708千円及び未払金の増加額11,060千円、減少要因として売上債権の増加額21,708千円、たな卸資産の増加額27,047千円及び未払消費税等の減少額7,746千円及び法人税等の支払額10,646千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、402千円(前年同四半期は15,128千円の支出)となりました。これは主に、敷金及び保証金の回収による収入4,963千円、リース債権の回収による収入4,621千円、有形固定資産の取得による支出8,624千円及び敷金及び保証金の差入による支出3,000千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、40,637千円(前年同四半期は48,903千円の支出)となりました。これは配当金の支払額34,870千円及び自己株式の取得による支出5,767千円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による影響の予測が困難なため現時点での予想の開示は行っておりません。なお、情報開示につきましては既存店等の情報を月次で開示するとともに、通期につきましては第4四半期中を目処に、分かり次第、速やかに適時開示をまいります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年9月30日)	当第2四半期会計期間 (平成28年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	470,782	497,680
売掛金	98,428	120,171
商品	41,489	68,529
貯蔵品	1,781	1,788
その他	52,378	37,291
貸倒引当金	△40	△50
流動資産合計	664,820	725,412
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	134,453	128,181
構築物(純額)	11,327	10,516
工具、器具及び備品(純額)	9,587	9,787
土地	562,970	562,970
その他(純額)	1,804	5,670
有形固定資産合計	720,143	717,126
無形固定資産	24,764	22,157
投資その他の資産		
敷金及び保証金	212,363	210,400
その他	71,485	66,660
貸倒引当金	△240	△229
投資その他の資産合計	283,608	276,831
固定資産合計	1,028,516	1,016,115
資産合計	1,693,336	1,741,527
負債の部		
流動負債		
買掛金	230,331	313,040
未払金	69,700	80,100
未払費用	46,986	48,328
未払法人税等	13,381	15,623
債務保証損失引当金	14,550	11,550
その他	5,459	6,141
流動負債合計	380,409	474,785
固定負債	700	1,000
負債合計	381,109	475,785
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000,000	1,000,000
資本剰余金	120,446	120,446
利益剰余金	226,908	186,191
自己株式	△35,128	△40,896
株主資本合計	1,312,227	1,265,742
純資産合計	1,312,227	1,265,742
負債純資産合計	1,693,336	1,741,527

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年3月31日)
売上高	2,314,801	2,071,543
売上原価	1,644,875	1,486,646
売上総利益	669,926	584,896
販売費及び一般管理費	593,736	574,911
営業利益	76,189	9,985
営業外収益		
受取利息	128	180
償却債権取立益	240	240
受取補償金	143	—
その他	133	193
営業外収益合計	644	613
営業外費用		
租税公課	1,311	—
自己株式取得費用	—	31
その他	317	114
営業外費用合計	1,628	146
経常利益	75,206	10,452
特別利益		
固定資産売却益	242	452
債務保証損失引当金戻入額	2,250	1,500
特別利益合計	2,492	1,952
特別損失		
固定資産除却損	1	—
店舗閉鎖損失	404	7,546
特別損失合計	406	7,546
税引前四半期純利益	77,293	4,858
法人税、住民税及び事業税	17,581	10,033
法人税等調整額	△6,965	—
法人税等合計	10,616	10,033
四半期純利益又は四半期純損失(△)	66,676	△5,175

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	77,293	4,858
減価償却費及びその他の償却費	19,535	17,310
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△31	△1
受取利息及び受取配当金	△128	△180
為替差損益(△は益)	△4	3
固定資産売却損益(△は益)	△242	△452
固定資産除却損	1	—
店舗閉鎖損失	404	7,546
債務保証損失引当金の増減額(△は減少)	△3,000	△3,000
売上債権の増減額(△は増加)	△6,364	△21,708
たな卸資産の増減額(△は増加)	△2,457	△27,047
仕入債務の増減額(△は減少)	36,313	82,708
未払金の増減額(△は減少)	△2,560	11,060
未払消費税等の増減額(△は減少)	△8,159	△7,746
その他	11,075	15,056
小計	121,674	78,407
利息及び配当金の受取額	128	180
法人税等の支払額	△17,064	△10,646
営業活動によるキャッシュ・フロー	104,738	67,941
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△14,761	△8,624
有形固定資産の売却による収入	300	822
無形固定資産の取得による支出	△5,500	—
敷金及び保証金の差入による支出	△2,000	△3,000
敷金及び保証金の回収による収入	—	4,963
リース債権の回収による収入	5,806	4,621
その他	1,027	815
投資活動によるキャッシュ・フロー	△15,128	△402
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△48,903	△34,870
自己株式の取得による支出	—	△5,767
財務活動によるキャッシュ・フロー	△48,903	△40,637
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	△3
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	40,711	26,897
現金及び現金同等物の期首残高	542,791	470,782
現金及び現金同等物の四半期末残高	583,503	497,680

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自平成26年10月1日 至 平成27年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,089,265	225,536	2,314,801	—	2,314,801
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,089,265	225,536	2,314,801	—	2,314,801
セグメント利益	130,063	27,331	157,394	△81,204	76,189

(注) 1. セグメント損益の調整額△81,204千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間(自平成27年10月1日 至 平成28年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,855,387	216,155	2,071,543	—	2,071,543
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,855,387	216,155	2,071,543	—	2,071,543
セグメント利益	67,747	19,682	87,430	△77,445	9,985

(注) 1. セグメント損益の調整額△77,445千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。